ご挨拶

時代も流れ、昭和27年に「北海道立水産孵化場」として発足した後、歩んだ歴史も既に67年。平成22年には「さけます・内水面水産試験場」と名称を変え、北海道の主だった研究機関を統合した「地方独立行政法人北海道立総合研究機構」に組み込まれたことは記憶に新しい。その間、さけ・ますを含め、北海道の内水面漁業・養殖業の振興と発展のために、大きな夢を抱きながら研究等に意欲を燃やしてきた先達諸氏のたゆまぬ努力によって築きあげてきたものは数限りなく、その功労、功績に対し、改めて敬意を表する次第である。

さて、広報誌『魚と水』の第1号が刊行されたのは昭和43年3月。その記念すべき第1号の編集後記に「当場は、昭和42年4月から、北海道さけ・ますふ化場との併設を解かれ、本道内水面振興の中心機関として出発しました。これを機に、従来の「魚と卵」、「内水面」の両広報誌を総合してより充実した豊富な広報誌として『魚と水』をおとどけします。・・・・新しい企画を豊富にもりこみ「魚と卵」の好評をくずすことなく、さらに優れたものとすべく努力してゆきますので、ご愛読ください。(K.H.)」と記載されている。期待に違わず、本誌の内外に示した貢献度は大きく、豊富な多岐に渡る情報の提供、それも軽い読み物調のものから新技術の開発情報など、一般向け広報誌として今まで広く愛読されてきたことは誰もが認めるところであろう。ちなみに、小職も愛読者である。

創刊当初、年2回発行された年もあったが、業務多忙の中での発行故に、年1回の発行を基本に、第1号から第52号（平成27年）まで、およそ半世紀（写真1）。冊子サイズをA5版からA4版へと拡大変更して写真や図をより見やすくしたのが第40号（平成15年）から、翌16年には「北海道立水産孵化場半世紀の歩み」と題してOBの方々からの回想記などを載せた特別記念号として第41号を出版し、時代と共に変わってきた組織の機構図や歴代職員名の掲載、さらには『魚と水』第1号～40号までの目次一覧を掲載している。また、長年用いられてきた冊子のデザインが変わったのが第42号（写真2）、小職の好みで言えば旧デザインの方だろうか。そのほんわかとした表紙、誰のデザインか分からないがとても愛着があった。思えば、この頃、「スクラップ＆ビルド」を標榜し、組織の機構が大きく変わろうとしていた時代である。その影響が『魚と水』にも及んでいたといっても過言ではないだろう。そのうち、冊子での印刷・発行が第44号（平成19年）で終了し、その後は経費節減に加え、時代の流れかインターネット上への掲載に様変わりしている。

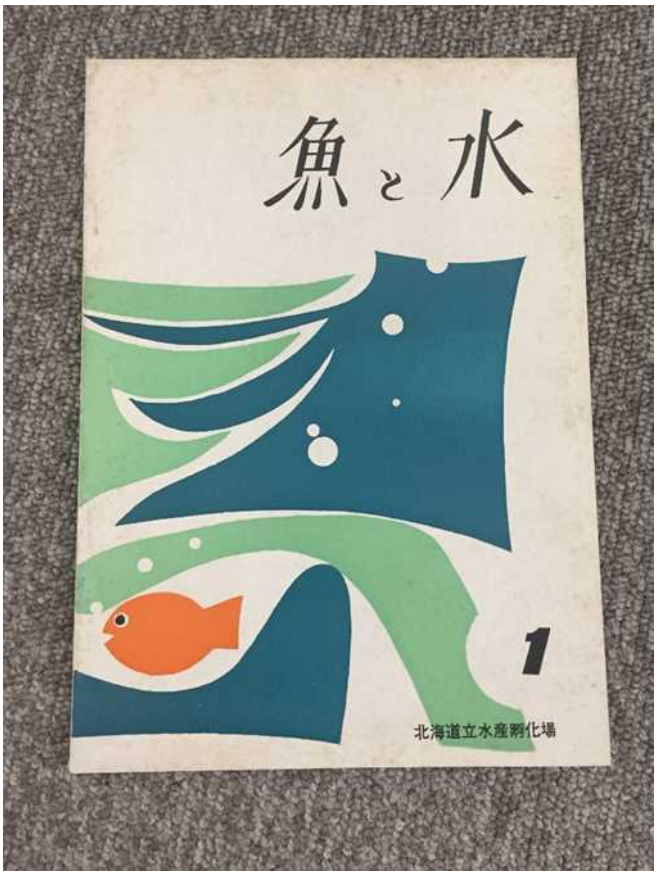

写真1　「魚と水」創刊号（昭和42年）

とはいえ、先達諸氏に対すると同様、本誌の内水面振興に果たした役割は大きく、その功績に対し、改めて敬意を表したい。海面水試と内水面水試が水産研究本部として平成22年に一本化され、その広報誌が「北水試だより」、「試験研究は今」に統一された今日、一般広報誌として半世紀以上もの間、内水面振興のために尽くしてきた『魚と水』の役目が終わり、人の一生の一区切り同様、「お疲れ様！」と言いたい。これからは、新しい時代に合わせ、先の二つの広報誌に加え、さけます・内水面水産試験場のHP（ホームページ）を充実させ、その中に『魚と水』の役割を入れ込むことでの対応を考えている。

ところで、先の編集後記に記載されたイニシャル「K.H.」とは誰だかお分かりだろうか？その当時の人であればともかく、50歳を超え小職の代までがすぐさま分かる限界だろうか？15年ほど当場に居られてから行政

畑に移り、今から23年程前の平成7～8年の2年間、水産部の長として辣腕を振るい、ちょうど「平成9年の国の行財政改革の一環であるさけます放流事業からの撤退表明の前に、来遊予測等のサケマス資源の統括管理業務を当場に打診・振ってきた張本人である（今では必須の業務として当たり前の様に真摯に取り組んでいるが、当時、相当数の国の職員が行っていた業務を限られた少ない人数でこなす必要性からも、場内で色々と議論した経緯がある)。」と言えば、大方の人はお分かりになるだろう。若かりし頃から、頭はカミソリのように切れ、そのプロデュース力などは折り紙つきで、当時の研究を中心とした職場にあっては、なかなか同程度に対応できる人は少なかったのではないかと小職は思っている。これからも頭が上がらないだろうその大先輩が創刊から第17号までの編集を一手に担った本誌を、まだ尻の青い若輩者の小職が終止符を打ち、廃刊にする。人によっては「とんでもない！」と言われそうだが、なんともやるせない気持ちというのが小職の実感である。異論、反論、色々とあると思うが、今まで執筆して頂いた多くの方々へはもちろん、先達諸氏等大先輩に対し、畏敬の念とともに、ここでは素直に合掌させて頂く。また、長い間、愛読頂いた多くの方々には御礼と感謝の言葉を伝え、廃刊に当たっての挨拶としたい。本当にありがとうございました。

（場長　こばやし　みき）

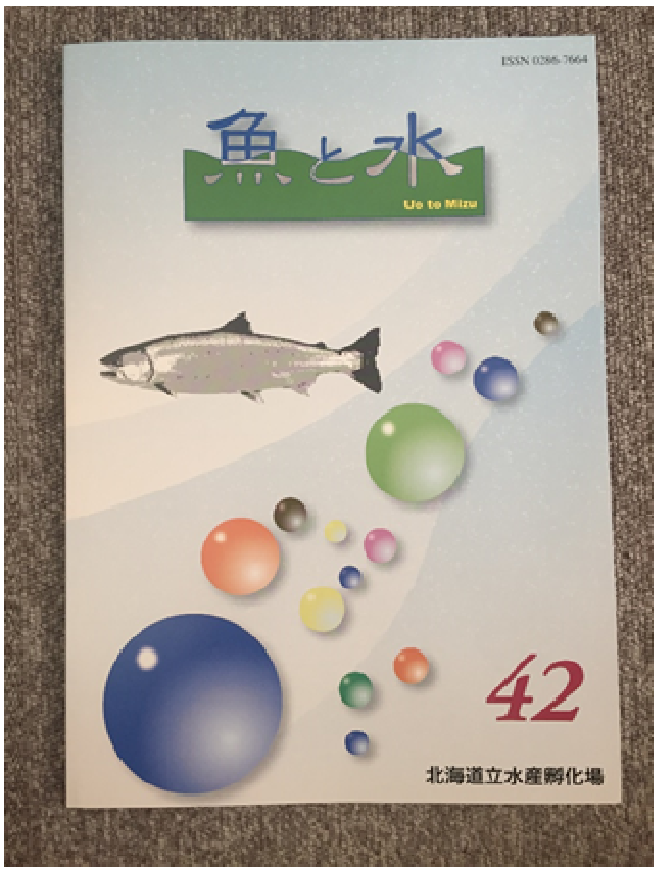

写真２　「魚と水」第42号（平成18年）
表紙のデザインが変更された